科目名	インターンシップ２							年度	2025
英語科目名	Internship 2							学期	後期
学科・学年	ＡＩシステム科　１年次	必／選	選	時間数	150	単位数	5	種別※	実習
担当教員			教員の実務経験			実務経験の職種			

【科目の目的】

インターンシップとは、学生が在学期間中に自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験を行うことを指す。本カレッジのインターンシップは、産業界の協力を得て実践的な体験と動機づけにより将来の企業人を育成することを目的とする。インターンシップでは、企業活動の一端に触れることにより、次の事項に関してなんらかの学習効果を期待する。１つ目に 企業における仕事の流れと仕事の進め方を理解すること。２つ目に企業の組織構造、および組織における人間関係やルールを理解すること。３つ目に学校で学んだ知識が社会でどのように活かせるかを確認し、今後の学習への動機づけをすることである。

【科目の概要】

インターンシップとは「就労体験」のことである。本カレッジの場合は、長期のインターンシップを夏休みに実施している。夏季インターンシップは学校のサポートのもと１年次の８～９月の夏休み期間に実施される。インターンシップの期間は１週間～２週間が多い。学校の授業で学習した内容を活かす場でもあり、実践的なカリキュラムが各企業で実施される。実習は、受入先企業、あるいはそのユーザ先企業の社内となっている。最終的な評価については各企業の担当者の方に依頼する。

【到達目標】

学生が在学期間中に自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験を行い、実践的な体験と動機づけにより将来の企業人を育成することを到達目標とする。具体的には、企業における仕事の流れと仕事の進め方を理解すること。企業の組織構造、および組織における人間関係やルールを理解すること。学校で学んだ知識が社会でどのように活かせるかを確認し、今後の学習への動機づけをすることを目標とする。今後の学生生活で学んだことが活かせるようにインターンシップ前に各自が目標を立ててから参加してほしい。

【授業の注意点】

インターンシップ開始前に担当教員と顔合わせに行く。また、インターンシップ活動賠償責任保険（総合賠償責任保険）に事前に加入すること。勤務時は

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル３ 優れている	レベル２ ふつう	レベル１ 要努力
到達目標 A	企業における仕事の流れと仕事の進め方を理解し実践できる	企業における仕事の流れと仕事の進め方を理解しているが、実践できない	企業における仕事の流れと仕事の進め方を理解していない
到達目標 B	企業の組織構造、および組織における人間関係やルールを理解している	企業の組織構造を理解していない、または組織における人間関係やルールを理解していない	企業の組織構造、および組織における人間関係やルールを理解していない
到達目標 C	学校で学んだ知識が社会でどのように活かせるかを理解し、今後の学習への動機づけをすることができる	学校で学んだ知識が社会でどのように活かせるかを理解しているが、今後の学習への動機づけをすることができない	学校で学んだ知識が社会でどのように活かせるかを理解しておらず、また今後の学習への動機づけをすることができない
到達目標 D			
到達目標 E			

【教科書】

【参考資料】

無し

【成績の評価方法･評価基準】

以下の事項を総合的に評価する。･課題の提出状況、課題から判断する授業理解度、授業出席率、授業への参加態度

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名	インターンシップ２	年度	2025
英語表記		学期	後期

回数	授業テーマ	各授業の目的		授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	インターンシップ参加(1)	会社概要、就業規則及び情報セキュリティの説明、実習の内容などを理解する	1	企業研究	会社概要と就業規則を理解する	3	
			2	情報セキュリティ	就業時の情報の取扱い方とリスクについて理解する		
			3	業務内容	インターンシップで行う業務内容を理解する		
2	インターンシップ参加(2)	他の参加学生と交流しながらグループワーク中心に実習を体験し、協調性などを身に付ける	1	業務理解	就業体験を通してITエンジニアの仕事を理解する	3	
			2	グループワーク	業務体験を通して協調性の重要性を学ぶ		
3	インターンシップ参加(3)	他の参加学生と交流しながらグループワーク中心に実習を体験し、協調性などを身に付ける	1	業務理解	就業体験を通してITエンジニアの仕事を理解する	3	
			2	グループワーク	業務体験を通して協調性の重要性を学ぶ		
4	インターンシップ参加(4)	他の参加学生と交流しながらグループワーク中心に実習を体験し、協調性などを身に付ける	1	業務理解	就業体験を通してITエンジニアの仕事を理解する	3	
			2	グループワーク	業務体験を通して協調性の重要性を学ぶ		
5	インターンシップ参加(5)	他の参加学生と交流しながらグループワーク中心に実習を体験し、協調性などを身に付ける	1	業務理解	就業体験を通してITエンジニアの仕事を理解する	3	
			2	グループワーク	業務体験を通して協調性の重要性を学ぶ		
6	インターンシップ参加(6)	他の参加学生と交流しながらグループワーク中心に実習を体験し、協調性などを身に付ける	1	業務理解	就業体験を通してITエンジニアの仕事を理解する	3	
			2	グループワーク	業務体験を通して協調性の重要性を学ぶ		
7	インターンシップ参加(7)	他の参加学生と交流しながらグループワーク中心に実習を体験し、協調性などを身に付ける	1	業務理解	就業体験を通してITエンジニアの仕事を理解する	3	
			2	グループワーク	業務体験を通して協調性の重要性を学ぶ		
8	インターンシップ参加(8)	他の参加学生と交流しながらグループワーク中心に実習を体験し、協調性などを身に付ける	1	業務理解	就業体験を通してITエンジニアの仕事を理解する	3	
			2	グループワーク	業務体験を通して協調性の重要性を学ぶ		
9	インターンシップ参加(9)	他の参加学生と交流しながらグループワーク中心に実習を体験し、協調性などを身に付ける	1	業務理解	就業体験を通してITエンジニアの仕事を理解する	3	
			2	グループワーク	業務体験を通して協調性の重要性を学ぶ		
10	インターンシップ参加(10)	他の参加学生と交流しながらグループワーク中心に実習を体験し、協調性などを身に付ける	1	業務理解	就業体験を通してITエンジニアの仕事を理解する	3	
			2	グループワーク	業務体験を通して協調性の重要性を学ぶ		
11	成果報告会の実施	各企業で成果報告会の実施、報告書の作成などを実施する	1	報告書の準備	発表することを念頭に適切に文書をまとめる	3	
			2	報告書の発表	活動内容を分かりやすく報告する		
12	成果報告会の実施	各企業で成果報告会の実施、報告書の作成などを実施する	1	報告書の準備	発表することを念頭に適切に文書をまとめる	3	
			2	報告書の発表	活動内容を分かりやすく報告する		
13	成果報告会の実施	各企業で成果報告会の実施、報告書の作成などを実施する	1	報告書の準備	発表することを念頭に適切に文書をまとめる	3	
			2	報告書の発表	活動内容を分かりやすく報告する		
14	成果報告会の実施	各企業で成果報告会の実施、報告書の作成などを実施する	1	報告書の準備	発表することを念頭に適切に文書をまとめる	3	
			2	報告書の発表	活動内容を分かりやすく報告する		
15	成果報告会の実施	各企業で成果報告会の実施、報告書の作成などを実施する	1	報告書の準備	発表することを念頭に適切に文書をまとめる	3	
			1	報告書の発表	活動内容を分かりやすく報告する		

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等